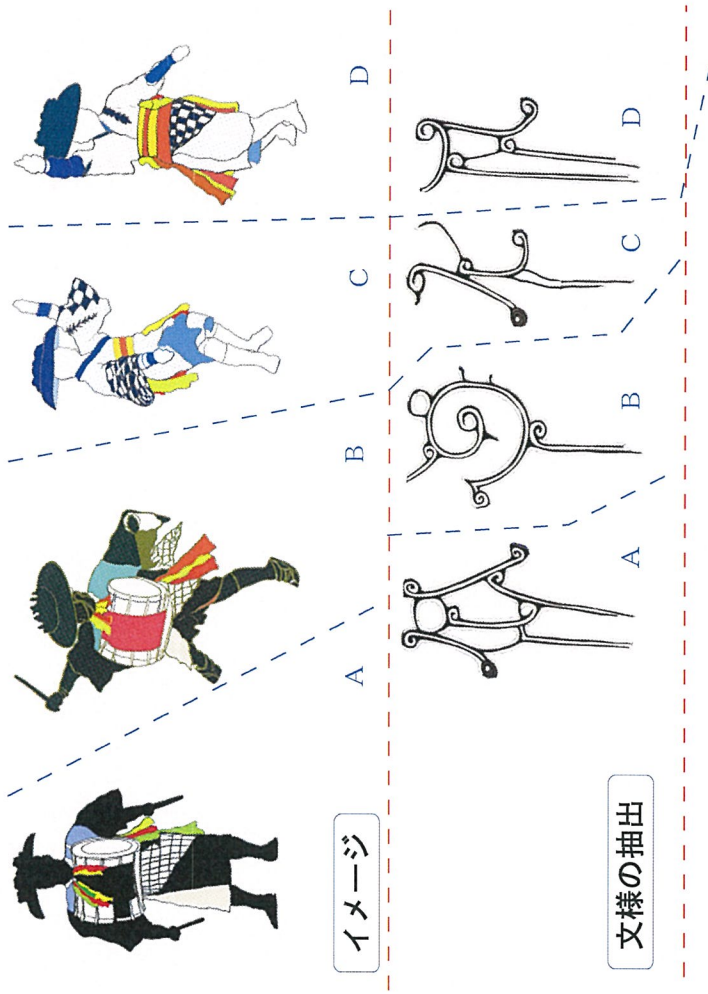


文様を考える

1・2の土器写真は、大館町遺跡出土の深鉢形土器です。大きな渦巻文や直線的な文様を規則的に連続して器面に描いていることがわかります。縄文土器の多くはこのように規則的な文様を施すのですが、正面に展示している大形深鉢形土器（3）は器面をパネルのように4つに区切り、各面には何かを表現したかのような文様が大きく描かれているように見えます。

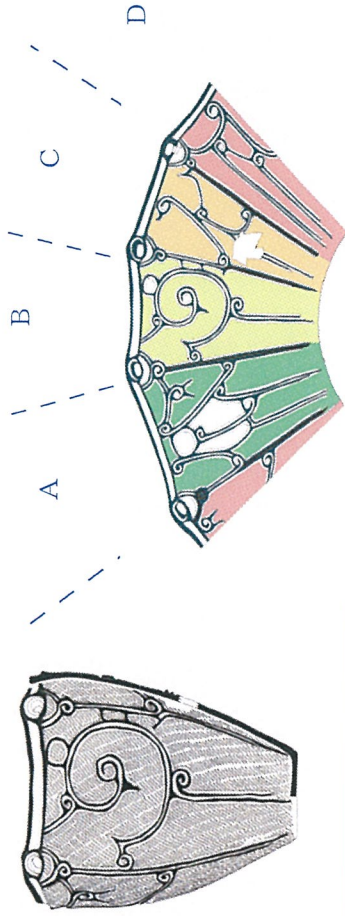
これは何を表現しているのでしょうか。一つ一つの文様を分けると右の図のようにA～Dの文様になります。A～Dのコマが同じ器面に描かれることから連続する「表現」と考え、これが人間の動作としたイメージが右のイメージ図です。Aが「動作無し」、Bが「全体的に大きな動作」C・Dが「上半身に重点を置いた反るような動作」と見てイメージしたのは「踊り」でした。縄文時代と現在を見比べると、難しいことですが、古くから伝わる踊りの中に文様のイメージを求めてみました。

皆さんはこの文様をどのように考えますか？



イメージ

文様の抽出



縄文人が製作した土器